媒体名	月間「健康と医療」	掲載日	平成１５年４月４日

JHM
Journal of Health & Medicine
発行所／株式会社 健康医療ジャーナル
〒104-0041 東京都中央区新富1-6-5-803
電話 03(6222)3121/03(3555)2210 FAX 03(6222)3125
発行人／岡野英男、年間購読料10,500円（消費税込み）
Eメール okano@e-jhm.jp

検証
natural medicine

抗老化・代替医療のための
「機能性素材サイエンスデータ」

◇１◇

圧倒的臨床例もつ「リカメン」素材

216人を対象に11年間追跡したヒト臨床データ持つ脅威の素材

循環器系疾患や脳機能に対し「８種類の医薬品に相当する」

パリ大学名誉教授が公式発表

抗老化・代替医療のみならず、臨床において機能性素材を用いる場合、EBMについて避けては通れない。しかし、天然の機能性素材においても、膨大な臨床データを持つ素材が存在する。そうした天然素材にスポットをあて、臨床導入への道筋を示す、「検証natural medicine／抗老化・代替医療導入のための機能性素材サイエンスデータ」第一回は、世界遺産にも例えられる「リカメン」を紹介する。

「216人の患者に対して11年間の臨床試験が行われている」と聞くと、どのような医薬品であろうか？と考えてしまうが、これはフランスで実際に行われているサプリメントのヒト臨床試験である。この臨床試験はパリ第6キュリー夫妻大学において行われ、97年にモントリオールで行われた第4回予防心臓学会議で「血液の生物学的基準に対するリカメン摂取の影響」と題して発表されている。結果、投与後2ヶ月でトリグリセリド・LDL・フィブリン血症・収縮期血圧・拡張期血圧などの値を優位に下げ、HDLの値を向上させ、その後も維持され、11年間さらに強化されている。またパリ大学名誉教授クロアレック氏によって行われた12年に亘る臨床試験においても同様の結果を得ている。しかもこれらの臨床試験は単離された成分の濃縮物などではなく、通常の製品（リカメンP－400：以下リカメンはP－400の意味）のカプセルを用いて行われた臨床試験である。

また同教授は動脈硬化、脳梗塞についても検証を行い、有効的と判断、ボケ防止についても効果があるということを第4回（カナダ）第5回（大阪）の国際循環器予防会議において発表を行っている。

圧倒的な臨床例を持つ「リカメン」（国内総販売元・ニュートリションアクト）なる素材は、いったい何なのか。その答えは北大西洋の深海2000mに棲息するリングフィッシュと呼ばれるタラ科の食用魚の自己発酵物。魚の自己発酵物、いわゆる魚醤はベトナムのニョクマム、タイのナンプラー、日本のしょっつるなどが有名だ。もともとクロアレック教授は日本やベトナムの心臓血管症の急変事故が少ないことから、魚の多い食生活に着眼し、魚油では通常の食用量以上の量では過酸化する恐れがあるとして、魚全体の摂取にこだわった。また、フランスのパスツール研究所が行っていたニョクマムの研究を経て、たどり着いたものが、古代ローマ時代から料理のソースや民間薬として使われていたリカメン。

クロアレック教授は長年の研究成果から、血圧、脳機能改善、心臓および循環器系の疾患予防などについて、「リカメンは8種類の医薬品に相当する」機能性素材であることを報告し大きな反響を呼んだ。その効能は、ペプチド、ポリペプチド、アミノ酸及びこれらと結合した多価不飽和脂肪酸、微量元素、セレン、ビタミンなどによるものと考えられている。

このうちポリペプチドとペプチドはホルモンの前駆体、リノレン酸系あるいはω3系の必須多価不飽和脂肪酸はプロスタグランジンPG3の前駆体として働き、セレンとビタミンEの相乗効果によって不飽和脂肪酸の酸化を防止している。

気になるヒト臨床試験の内容だが、前出の第4回予防心臓学会議（97年・モントリオール）で発表されたデータでは、216名の心臓循環系リスクの高い患者に対して、11年間にわたり、最終的に96人の患者を追跡している。その結果約2ヶ月で効果があらわれ、以後11年にわたり、その効果は持続、または向上している。

第5回国際循環器予防学会（01年・大阪）で、動脈の組織的変化に対してのリカメンの効果を確認するため、超音波モニタリング、断層撮影により検証した臨床試験が発表されている。この臨床試験は、3年間にわたり、心臓血管系疾患遺伝形質、高脂質血症、高血圧症、糖尿病、喫煙、および(フラミンガム調査により判明しているその他の要因を有する、高リスクの被験者200名について、危険因子を持たない対象群との比較を行った。臨床的、生物学的比較検査を6ヶ月ごとに行い、超音波モニタリングにより壁厚の状態を確認した。リカメンの摂取群については超音波モニタリングにより症状の退行が確認され、全ての危険因子にたいして、リカメンの摂取により予防効果が期待できる結果となっている。

脳機能に関しては、「The Journal of the European College of Neuropsychopharmacology」（欧州神経精神薬理学会誌）に96年6月に発表されたデータでは、83名の被験者にたいして、知的能力、記憶能力に対してのリカメンの効果を同一条件の偽薬投与群との比較を行い、記憶力の活性化の効果を証明している。

また、リカメンを主成分に小麦胚芽油・ヒマワリ油などを配合した、リカメンP－600による研究で、ある被験者は、食事や運動量など変化なしで14ヶ月で体脂肪率が約2%減少し、筋肉量は増加している。この数値だけでは平凡に見えるかもしれないが、この数値は57歳の高齢者のもの。この結果は国立予防医療学会(仏・97年)で発表され、継続して多くの被験者のデータ分析を行っている。

その他にも、ストレスや学習プロセスについてのデータなど公式発表されたデータを持つこのリカメン。日本も小魚など「全体食」がベースだったころの和食を、見直さなければならない。それができないのであれば、リカメンを摂取しなければならない。

●データへの質問はFAX 03－6222－3125